

うつ病の入院加療について

広尾病院 神経科

H26年12月作成

H31年6月改訂

入院をお勧めするケース

- 病状が重い場合
- 中等症でも外来での治療で改善しない場合
- 環境的な要因が症状を悪くしているので、それから離れた方が、症状が改善しやすいと推測される場合
- 生活のリズムを整えるのが必要な場合、等

治療の内容、期間

治療の内容、予想される期間は患者さんにより異なりますので主治医から説明を受けてください。(H30年度の入院統計において、中等症エピソードで入院期間の中央値は60日、精神病症状を伴う重症エピソードのそれは101日、反復性うつ病エピソードで49日でした。)

多くの場合は、最初に、薬物の調整が行われます。具体的には①すでに服用されている抗うつ剤を増量、②別の抗うつ剤への変更、③2種類の抗うつ剤の併用、④抗精神病薬の併用、⑤気分安定化薬の併用、等です。

うつ病に対して抗うつ薬が効果を示すのは2週間程度かかり、十分な効果を示すのはそのあとになりますので、通常、薬物調整に4週間程度以上かかります。

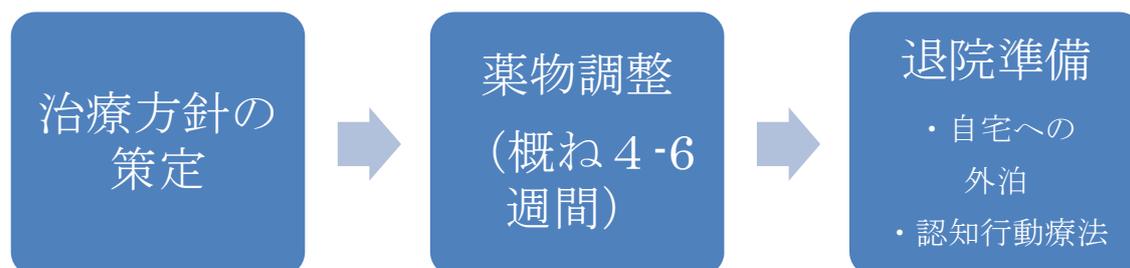
病状によっては入院中、特に入院当初に、外出などの行動の制限をお願いすることがあります。退院前には自宅での生活の様子を評価するために外泊をおこなうことをお勧めすることがあります。

薬物療法に反応が良くない、もしくは症状の著しいうつ病等では、麻酔科の協力のもと実施する電気けいれん療法の適応になる場合があります。

考え方のパターンがうつ病の症状の憎悪と関係していると思われる方には、症状が比較的軽くなったときに認知行動療法(導入)をお勧めしております。

一般的に認知行動療法では約10回前後の心理面接セッションが行われますが、当院での実施はその準備段階と位置づけており、4回程度行うことを想定しています。退院後希望する方には、適切な外部機関を紹介致します。(認知行動療法とは心理療法の一種で、出来事や状況に対する認知(=考え方)に介入することで感情や行動の改善をはかります)

薬物療法を主体とした入院の大まかな流れ（患者さんによって詳細、内容は異なりますのであくまで参考としてご覧ください）を下記に示します



その他

入院については、神経科のホームページの最後の方の「外来受診・入院に関してのお願い、注意」及び、そのリンク先の「入院生活のご案内」もご参照ください。

著しい精神症状が長期に続く場合や、他害性がある場合等、開放病棟での治療が困難な状と考えられるときは、他医療機関における閉鎖病棟での治療をお勧めしております。